

ゲートキーパー養成研修

＝実践度調査から考える地域ぐるみの自死防止対策＝

(実施期間) 平成 25 年度

(基金事業メニュー) 人材養成事業

(実施経費) 394 千円 (394 千円)

(実施主体) 島根県雲南市

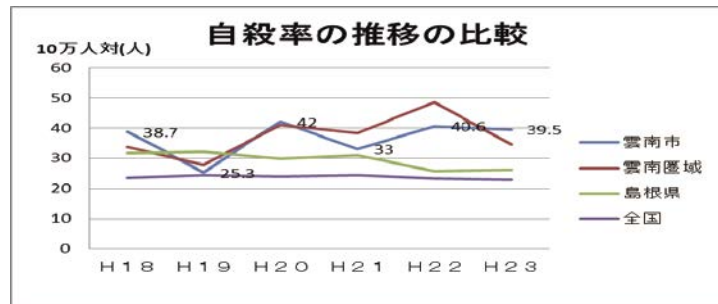
【事業の背景・必要性・目的】

雲南市では平成 21 年度から、総合的な自死防止対策を推進するため、庁舎内連絡会や市内関係機関の参画による検討委員会の設置により基盤整備を行ってきた。平成 22 年度から、市職員、民生児童委員、雲南市立病院職員、介護保険関係者（介護支援専門員、介護保険事業所職員）を対象にゲートキーパー養成研修（以下 GK 研修）を実施した。平成 25 年度は、今後の自死防止対策のありかたを検討するため、研修受講者や民生児童委員を対象に実践度調査を実施した。

【地域の特徴・自死者数の動向】

近年、壮年期男性の自死者が多く、20代、30代男性、高齢者の自死があり、年間 15 人前後が自ら命を絶っている。国や県平均より自殺死亡率が高い状況である。

（出典：厚生労働省人口動態統計）



【事業目標 事業内容】

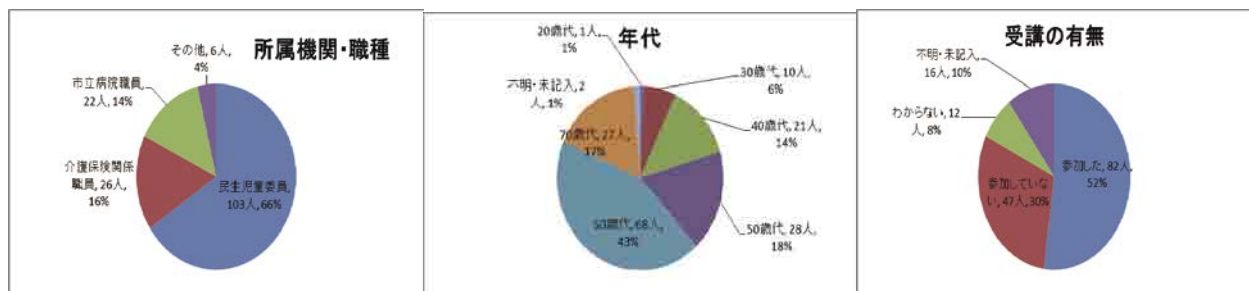
- ゲートキーパー養成研修：本市における GK 研修は「①安心して暮らせるまちづくり」「②窓口対応と専門機関へのつなぎ」「③職場・同僚への実践」の 3 点について理解し実践できることをねらいとして実施している。平成 22 年度から 24 年度までに、延べ 380 人が研修を受講した。
- ゲートキーパー養成後実践度アンケート調査：GK 研修受講者の職場や地域での実践度の評価と、今後の自死防止対策のありかたを検討するため、平成 23 年度と 24 年度の研修受講者と民生児童委員の 229 人を対象にしたアンケート調査を実施した。

【事業の工夫点】

調査対象者全員に、内閣府作成の「誰でもゲートキーパー手帳」を配布し、再教育の機会とした。GK 研修に参加していないと回答した者にも自由記載欄を設け、今後の自死防止対策の意見を求めた。

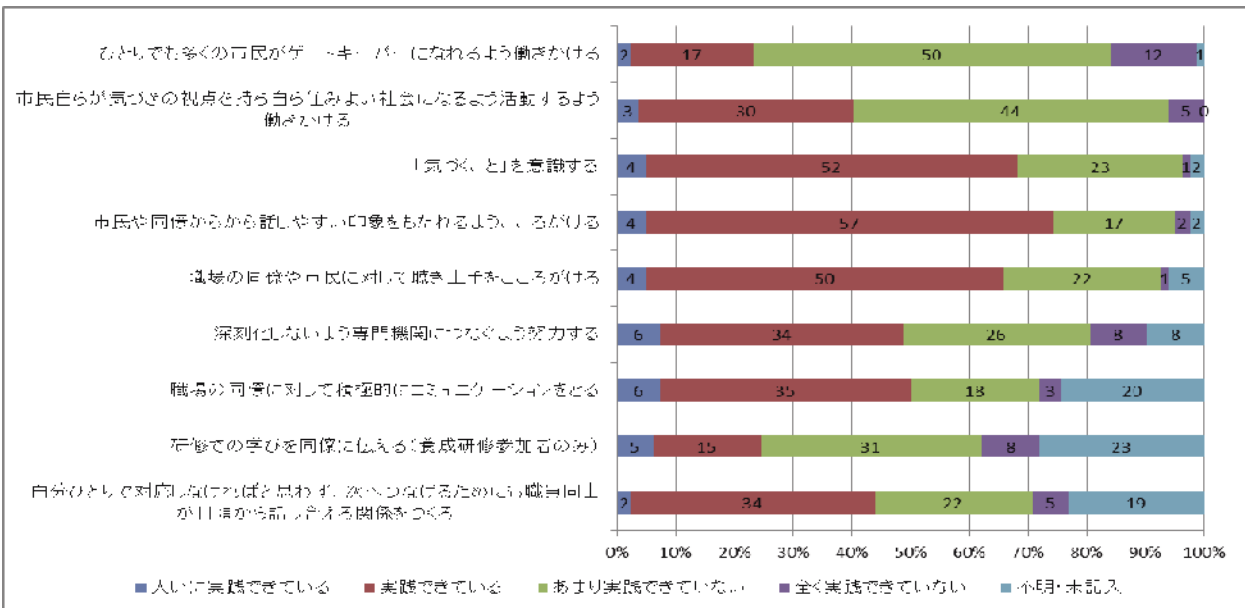
【事業成果、今後の課題、その他特筆すべき点】

- アンケート結果：回答者は 154 人/229 人中（回収率 67.2%）であった。



3 早期対応の中心的役割を果たす人材を養成する⑦

3つのねらい（9項目）における実践度の結果はつぎのとおり。（受講者82人の集計結果）



研修を受けた者は「気づき」の意識や、「話しやすい印象」、「聞き上手」をこころがけることの実践度は7割と高かった。一方、研修での学びを同僚に伝え、市民にゲートキーパーとなるような働きかけの実践度は低く、地域に広げていくことの難しさを感じていた。自由記載では、受講していないものも含め75人が回答しており、自死防止への関心がうかがえた。「気づき」「声かけ」「見守り」「話を聴くこと」などが大切と感じている者が多く、自らの研修参加に意欲的であり、事業所や自治会など地域の様々な場所での研修を要望する声も多数あった。また自死を地域全体の課題と感じながらも、具体的にどう取り組んでよいかわからないといった意見もあった。

○「健康なまちづくり研修会（自死を減らすためのアイデア創出ワークショップ）」の開催

これらの結果をふまえ、地域のリーダーを対象に「自死を減らすためのアイデア創出ワークショップ」を開催した。アイデア創出の手法をとったことで、自分たちの暮らす地域を住みよくしていこうとする視点で自死防止対策を検討することができた。自死を地域全体の課題としてとらえ、自死防止対策を住みやすい地域づくりととらえる意識醸成のきっかけづくりができた。

「ワークショップの様子」



(問合せ先) 島根県雲南市役所 健康福祉部 健康推進課
 TEL: 0854-40-1045
 E-mail: kenkousuishin@city.unnan.shimane.jp
 URL: http://www.city.unnan.shimane.jp/